

〔臨床免疫, 14 (Suppl. 5), 127 (1982)〕

〔薬理学教室〕

潰瘍性大腸炎に対する抗アレルギー剤投与の試み黒沢元博*, 根本俊和*, 田中哲治*, 長嶺竹明*, 真下延男*,
笛木隆三*, 小林節雄*, 永井博弼, 江田昭英**A therapeutic trial of anti-allergic drugs in the treatment of ulcerative colitis**MOTOHIRO KUROSAWA*, TOSHIKAZU NEMOTO*, TETSUJI TANAKA*,
TAKEAKI NAGAMINE*, NOBUO MASHIMO*, RYUZO FUEKI*,
SETSUO KOBAYASHI*, HIROICHI NAGAI, AKIHIDE KODA

6例の潰瘍性大腸炎患者に対し、抗アレルギー剤であるN-5'あるいはIG-10を投与した前後に、若干の免疫・アレルギー学的検索を行い、臨床症状、注腸透視所見および大腸内視鏡所見などの経過とあわせて検討し、以下の結果を得た。1) 抗アレルギー剤投与前の検査成績では、血清免疫グロブリン(IgG, IgA, IgM), 血清蛋白分画(α_1 , α_2 , γ グロブリン), CH_{50} の変化および house dust 抗原による即時型皮膚反応が陽性を示した例がみられ、体液性免疫異常の関与が示唆された。また、細胞性免疫異常が考えられた例、自己抗体の存在が証明された例も認められた。2) 抗アレルギー剤の効果より、本症は抗アレルギー剤単独投与にて良好な経過をたどる群、ステロイド剤の減量ないし中止に抗アレルギー剤が有効な群、および抗アレルギー剤を投与しても何ら効果の認められない群の大きく3つの subgroup に分けられることが示唆された。

* 群馬大学医学部

〔Int. J. Immunopharmac., 4, 541 (1982)〕

〔薬理学教室〕

Isolation and Chemical Properties of a Haptenic Substance from Buckwheat DialysateAKIRA YAGI*, YUKIYOSHI YANAGIHARA**, HIDENORI YAMADA*,
AKIHIDE KODA, TAKAO SHIDA**, HIROMASA SHIODA**, ITSUO NISHIOKA***Buckwheat Dialysate からのハプテン様物質の単離とその化学的性質**八木 晟*, 柳原行義**, 山田秀徳*, 江田昭英, 信太隆夫**,
塩田浩政**, 西岡五夫*

そば水性エキスの透析外液(BWD)には mast cell 上の IgE 抗体を抗原特異的に中和するハプテン様物質が含まれている。この BWD について種々の分画を試み、ハプテン様物質と考えられる BWD II 22-3 を分離した。アミノ酸分析の成績から、BWD II 22-3 は Asp (1), Thr (1), Ser (1), Glu (1), Gly (4), Ala (1), Val (1), Leu (1), Orn (2), Lys (1), Arg (1) および Cys (1) によって構成されており、glucose が Ser あるいは Thr の水酸基に結合していることも示された。BWD II 22-3 はゲル濾過および紙電泳泳動によって単一物質であることが示され、また、Sephadex G-50 を用いたゲル濾過により分子量は 1600 と計算された。BWD II 22-3 が -SH 残基を有することは明らかであり、これによってソバに感作されたヒトの血清を用いた RAST において 100 μ g/disc の濃度で約 50% の抑制を示すものと考えられた。これらの成績から、BWD 中の活性成分である BWD II 22-3 はソバ過敏症患者の減感作に応用しうるものと考えられる。

* 九州大学薬学部, ** 国立相模原病院リウマチ・アレルギー臨床研究部